



札幌地区  
宣司評  
だより

TO

と

MO

も

NI

に

第38号

発行日：2010年11月28日

●発行責任者：札幌地区長 勝谷 太治 ●発行所：札幌地区宣教司牧評議会／札幌市中央区北1条東6丁目

## 『第36回 カトリック正義と平和 全国集会・札幌大会の報告』

新海 雅典（大会実行委員長）

戦後65年目の今年、正義と平和全国集会が札幌の地で開催されたことは、大きな意義があります。世界中で不況や雇用不安が渦巻く中で、目先の経済問題のみに耳目が奪われがちな状況にあって、戦争や平和そして人権や差別の問題にしっかりと関わりを深めつづけることは教会の大切な働きだからです。

さて札幌教区の教区長そして札幌地区長も交代して新しい時代の到来を迎えた中で、大会は9月18日から20日までの3日間、「真の共生社会をめざして」をテーマに掲げ、のべ1,200名の参加者を集めて開催されました。大会初日は北大南門に位置する聖公会教会をお借りし、北海道アイヌ協会副理事長の阿部ユポさんによる「アイヌ民族抵抗運動の歴史」と

題する基調講演からはじまった。北海道の先住民族として長い歴史にわたって抑圧や差別を受けつづけたアイヌ民族が、今ようやく世界の先住民族と連帯しながら権利回復の動きを高めつつあることが語られました。また第2部のワークショップでは、小川早苗さんによるアイヌ民族衣装の解説とカムイユウカラ『アイヌ神謡集』からの朗読がおこなわれ、更に若手演奏家である小川もといさんによるアイヌ民族楽器ムックリとトンコリの演奏が披露された。

大会2日目は5つの現地学習と5つの分科会がそれぞれおこなわれた。現地学習は以下

- ① アイヌ民族の歴史と文化～アイヌ女性の視点から（札幌市ピリカコタン）
- ② 樺太アイヌの受難の歴史から民族の権利回復を学ぶ（江別市<sup>ついでしかり</sup>対雁）
- ③ 治安維持法と小林多喜二（小樽の関連施設訪問と講義）
- ④ レーン・宮沢事件とスパイ防止法を考える（円山教会での学習と円山墓地での墓参）
- ⑤ 小樽戦争碑めぐりから憲法9条を考える（軍港だった小樽の史跡訪問と講義）

また天使大学の会場でおこなわれた分科会は、



阿部ユポ氏による基調講演



「憲法20条と政教分離」の  
ネットワーク・ミーティング

- ⑥ ピースゾーンを世界に・無防備平和のまちづくり
- ⑦ 労働力としての外国人と入国管理
- ⑧ 死刑廃止と裁判員制度について
- ⑨ 若者のディーセント・ワーク～人間らしい働き方
- ⑩ ハンセン病回復者の支援活動をめぐって  
更に夜の部のネットワーク・ミーティングでは、  
H I V感染者への支援、憲法9条、ホームレス支援、  
地球温暖化、憲法20条と政教分離などが熱心に話し  
合われた。  
大会最終日には社会司教委員会主催による人権シ



人権シンポジウムで発題する  
菊地功司教、幸田和生司教、松浦悟郎司教

ンポジウムがおこなわれ、これは札幌地区の使徒職大会をも兼ねていたため、会場の北11条教会は600名の参加者であふれた。発題は（1）菊地功司教による「民族差別といのち」、（2）松浦悟郎司教による「人間の尊厳と平和」、（3）幸田和生司教による「自死に追いつめられた人々」がそれぞれ話された後、会場からのたくさんの質問にも各司教が誠実に答えられた。

結びに「派遣ミサ」が大会代表の菊地功司教の主司式でおこなわれ、20名近い司祭団・司教らも共同司式し、信徒らの力強い歌声の響く中、会場は平和への祈りで満たされた。



派遣ミサを司式する菊地功司教

## 宣司評スケジュール

### 1月15日（土）

- ・第2期 要理担当者養成講座開講  
9：30～12：30 北11条教会
- ・人権フォーラム 非暴力平和旬間講演会  
15：00～17：00 ベネディクトハウス  
「M・L・キングJr牧師に関する講演」  
講師：新海神父

### 1月22日（土）～23日（日）

- 札幌地区交流会 男性の部  
北広島グラッセホテル

### 2月20日（日）

- 晴佐久昌英神父講演会 北11条教会  
11：00 ミサ  
13：00～15：30 講演・質疑

### 3月6日（日）

- 森一弘司教講演会 北11条教会 13：00  
家庭の問題についての

講演自殺に関してpart II

「私たちのサポートのあり方について」

### 3月下旬

- 全道カトリック高校生練成会

## 「最も小さな者のひとりに」

2010.7.24 北1条教会 参加者160名



講師 札幌教区管理者 菊地 功 司教

私は司祭叙階後、アフリカのガーナで司牧生活を送りました。アフリカには53の国があり、サハラ砂漠の南と北で生活・文化が大きく分かれています。北はエジプトやリビア、モロッコなど地中海に面したイスラム教の国々です。私たちがアフリカと聞いてイメージするのは南の地域です。今日はその中のガーナとルワンダについて話をします。

南の地域はヨーロッパ諸国が植民地として互いに取り合って、国境も人工的に定められました。私の赴任したガーナも植民地としてつくられた国です。そのガーナでも辺境のオソンソン村の教会の主任司祭として8年勤めました。信者の総数は3千人くらいですが、巡回教会が22~23あります。司祭は一人です。オソンソン村には電気も水道もありません。電気は発電機を使用しました。時々、日本の映画などを上映しましたが、一番の人気は“大相撲”でした。ルールがわかりやすいのですね。

ミサには多くの人が集まり、すごい熱気です。奉納の時には、献金のほかに農産物などの現物をささげたりします。歌い踊りながら捧げますから時間がかかります。彼らは踊りが遺伝子に組み込まれているようで、何かといえば必ず踊りが出てきます。

オソンソン村では、大家族が標準でした。親戚まで入れて大勢で暮らしています。決して豊かではありませんが、路頭に迷う人もいません。貧しい中でも助け合って生きています。みなしごになっても戻る家がある。そういう相互扶助のシステムができています。輸送手段がないので流通システムは存在し

ません。商店もありません。必要な物は定期的にかかれるマーケットで調達します。

巡回教会が多いのは交通手段がないからです。人が集まる手段がないのでこちらから出かけなければなりません。車で行きますが、道路が悪く通れないところもあるので毎週は無理です。ミサは2~3ヶ月に1回くらい。巡回教会では信徒の奉仕者がお世話をしています。

ミサは2~3時間かかります。長いミサのほとんどの時間は踊っている時間です。献金の時もひとり一人踊って捧げますから非常に時間がかかります。アフリカで司牧して感じたことは、文化の中に根付いている宗教性が非常に強く、それにキリスト教がどう入り込んでいくかという課題があります。今のところ、まだ成功していません。たとえば、病人が出たときは、まず、まじない師を呼んで儀式をします。それが終わってから司祭が呼ばれます。キリスト教ですが、土着の伝統が色濃く残っています。

私はカリタス・ジャパンを通して世界のいろいろな問題に関わってきました。そして、「解決されていく世界の問題」ということを知りました。最初はセンセーショナルに報道されて皆大騒ぎしますが、時間が経つにつれてメディアも取り上げなくなり、忘れられてしまいます。苦しんでいる人たちは依然としているのに、忘れられることによって問題は解決されたことになってしまいます。残されるのは苦しんでいる当事者だけ。そのようなことがしばしば繰り返されています。よその国で起きていることは、どうしても客観的に見てしまいます。自分とは関係のない世界の出来事と感じてしまいます。しかし、実際には私たちと同じ一人の人間が苦しんでいます。その苦しみを自分の痛みとして肌で感じるができなければ、問題は時間とともに忘れ去られ、自分の中では解決されてしまいます。

ルワンダで1994年に80万人が虐殺される大事件が発生しました。多数派のフツ族が少数派のツチ族を大量虐殺したのです。ルワンダではツチ族、フツ族

の二つの部族間に複雑な問題があります。二つの部族は、はじめから憎み合っていたわけではありません。ベルギーが植民地支配をやりやすくするためにツチ族を重用し、両者には格差ができ、フツ族の不満はベルギーではなくツチ族に向けられるようになります。人為的につくられた部族の違いと、それを政策的に利用した植民地支配。さらに、植民地支配が終わり独立後は独裁者がそれを利用しました。その後、対立は武力を用いた殺し合いに発展します。ルワンダの人口は800万人で8割がクリスチャン（6割がカトリック）です。虐殺事件の時には、多くの人が教会に逃げ込み、教会が虐殺の現場となりました。

実は、これ以前の1959年にもフツ族によるツチ族の大量虐殺がありましたが、その時は女子供を殺しませんでした。その後、国外に逃れていたツチ族の逆襲にあって再びツチ族の支配になったことがあったので、今度の虐殺は徹底していました。ラジオからは「今回は間違いを犯すなよ。女子供も殺してしまえ」と煽る声がはっきりなしに流れていました。80万人が殺され、210万人が国外に逃れました。私は、隣国ザイルの難民キャンプでお世話をしていました。住環境は劣悪で、難民の中には兵士もいて武器も隠されています。難民キャンプが襲撃されることもありました。その難民キャンプもザイルの隣国のコンゴの内戦の影響で撤去しなければならなくなりました。難民はばらばらになり、混乱の中で孤児になる子供も多かったです。教会がその孤児の面倒を見ていました。

国民の多くがクリスチャンの国で、クリスチャン同士でなぜ虐殺事件が起きたのか。バチカン正義と

平和委員会の議長であるピーター・ジャクソン枢機卿（ガーナ人）は、キリスト教の信仰が虐殺を止めることができなかったのは、信仰の神髄を伝えることができなかったからだと言いました。信者を増やすことや教会の組織づくりは成功しましたが、福音宣教の神髄の部分においては成功しなかったということです。

福音ためには洗礼は不可欠です。しかし、福音を述べ伝えなければ空しいものです。キリストご自身の十字架上の愛の形、行いによる愛の形を伝えなければ空しいものになります。ことばの知恵によらないで告げ知らせるもの。行いによる証しが不可欠なのです。人数を増やすことに目を奪われたら肝心な福音宣教を忘れてしまいます。それによってもたらされた悲劇のひとつがルワンダで起こった出来事です。教会は、ルワンダの悲劇から何かを学ばなければなりません。

ヨハネ・パウロ2世の回勅「新しい課題」にこう書かれています。

“発展とは、富める国が現在享受している生活水準に全ての人を引き上げるのではなく、個々人の尊厳とひとり一人に与えられた使命、すなわち神の召し出しに応える力を高めることです。”我々が目指すところはここでないでしょうか。ひとり一人がよりふさわしく生きる環境を整えていくこと。そのために教会は力を尽くしていかなければなりません。ひとり一人を大切に、ひとり一人に与えられた使命をふさわしく生きていける世界を生み出して行くことが、私たち福音を述べ伝える者にとって大切なことです。



# 2010年 平和を祈る40日間 「平和のために働く人は幸い」

札幌地区・平和旬間実行委員会

日中戦争開始の7月7日（1937年）から終戦の8月15日（1945年）までを平和を祈る40日間として、上記のテーマで平和講演会、平和祈願ミサ、平和行進などを行いました。



**平和講演会** 7月24日（土）15：00～17：00

カトリック北一条教会

マザーテレサ生誕100周年

「最も小さき者のひとりに」

講師 菊地 功 司教

（札幌教区管理者、カリタス・ジャパン担当司教）

参加者 160名

**平和祈願ミサ** 8月15日（日）18：00～19：00

カトリック北一条教会

司式 新海稚典神父

（札幌地区カトリック正義と平和委員会担

当司祭）司祭団

参加者 160名

「さきの戦争で犠牲となったすべての人を悼み、日本がアジア・太平洋の人になした加害に対しゆるしを願い、和解を祈ります。」とのまねきの言葉ではじまりました。

新海神父は説教で「平和の使徒―戸田帯刀元札幌教区長の生と死」と題して話されました。

「戸田教区長（1899年生）は、1927年ローマで叙階、’30年東京教区へ、’40年札幌教区長に着任しました。当時はすでに外国人は司教などの要職につけなくなっていました。’41年には光星学園の理事長

に就任しています。

日ごろから戦争の悲惨さ愚かさを訴え、戦争の終ることを祈っていました。’41年のレーン・宮澤事件のレーン先生を獄中へ見舞ったり、光星中学の教練用の銃剣購入に消極的（数の不足で購入できなかった）だったりなどの言動から、戦争非協力者として官憲から目をつけられていました。3か月間逮捕拘留され、裁判で無罪になりやっと釈放されたこともありました。

’44年横浜教区長となり札幌を離れます。着座式で“私は自分の生命をかけて日本のため、また世界平和のために働きます。”と述べていますが、この言葉は横浜教区・保土ヶ谷教会に石碑となって残っています。

終戦の日8月15日を受けとめ、平和時代のスタートとなる喜ばしい日だと言っています。戦時中海軍に接收されていた山の手教会の返還を願い出ていましたが、8月18日保土ヶ谷教会で暗殺されました。右目を貫いた弾丸の薬きょうは海軍が使っていたものでしたが事件は不問にふされてしまいました。教区長はいま、山の手墓地に眠っています。

この事件は単なる個人的な不幸な事件ではありません。国粹主義・軍国主義は人権・平和をふみにじるものです。私達は戸田教区長のように豊かな国際



感覚を身につけ、キリスト的なものに反する軍国主義的なものに対立していかなければならないのです。」

共同祈願では、虹の会、正義と平和委員会、働く人の家、うえるかむはうす(タガログ語と日本語)、青少年委員会、聖心会から祈りがささげられました。

ミサ献金81,760円はカリタス・ジャパンを通してスーダン・ダルフル地方の内戦難民の救援と、海外援助のために贈りました。

折り鶴の奉納先は次のとおりです。

広島平和公園

岩見沢、北一条、江別、北11条、山鼻、花川  
マリア院、北26条、北見

長崎原爆慰霊碑

新田、真駒内、小野幌、月寒、手稲他  
沖縄・平和の礎

北26条、小野幌、富岡、円山



最後に、札幌キリスト教連合会・信教の自由を守る委員会からのメッセージが読みあげられました。

**平和行進** 8月15日(日曜) 19:20~20:10

参加者 70名

ミサ後、教会から大通公園までプラカードをかかげながらペンライトの行進をした。憲法9条は世界の宝だ！ 沖縄辺野古に基地をつくるな！ 地上から核兵器をなくそう！ などのシュプレヒコールで平和を訴えました。若い人、ファミリー、司祭、シスターなど皆ひとつになり、元気な行進でした。

行進後、公園3丁目でプロテスタントの皆さんと祈りの交流をもちました。久世牧師さんのリードで讃美歌と祈りで平和を祈願し、握手をかわしました。(20:25解散)



今年も、8月6日、9日、15日には多くの教会で「平和の鐘」と祈りのひとときがもたれました。

40日間、多くの皆様の協力をいただきました。ありがとうございました。

(記 松井洋治)

—— ♪この一日が 美しい思い出になるように  
心こめて 愛をこめて この時を生きよう♪ ——

11月3日、札幌ファクトリーアトリウムに子どもたちの美しい声が響き渡りました。北一条教会に隣接する「カトリック聖園幼稚園」年長さくら組の子どもたちとそのお母様たちです。

年長組さんは毎年、この時期に飾られるファクトリーアトリウムの大きなクリスマスツリーの点灯式に、歌とハンドベルでお母様たちとともに参加しています。

♪神さまといつもいっしょ わたしたちみんな～ ♪アーメン ハレルヤ～!

お母様たちが登園時に集まり、練習を重ねてきたハンドベルと子どもたちの元気な声は聴く者の心に温かく染み込み、涙がこぼれそうになりました。

祝日とあり、多くの人々で賑わうファクトリーに、温かく清らかな声が響き渡り、神さまの愛が広がってゆきました。

そんなキラキラした時間に立会い、「神さまの愛を伝える」という原点がここにある！としみじみ感じました。さくら組さんとお母様たちに心から「ありがとう」と伝えたいです。



## 女性の集いに参加して

カトリック北26条教会 高橋 由利子

2010年カトリック札幌地区交流会「女性の集い」に参加させていただきました。14小教区、40名の皆様とご一緒し、洗礼を受けてからの教会とのかかわりや、家族の事など、自由な雰囲気の話りが持たれました。午後からは、参加者を7つのブロックに分けての分かち合いです。孤独な人、悩みを抱えている人、信徒相互の語らいの場所として26条教会で行っている「コーヒーショップ」を紹介させていただきました。

(当教会では毎週、4地区が当番制で一杯100円で販売しております)

ミサの時、隣に座った方をお誘いしたり、バスの待ち時間に一杯、ご家族の迎えを待つ方、新しく教会にいらした方など、少しの時間でも誰かと話をし、て帰りましょう。

「一人じゃないよ」と受入れる心と手を持ちコーヒーショップが続く事を祈りつつ書かせていただきました。

身近なところで愛を実践出来るとしたら、本当に嬉しいことです。

どこの教会も高齢化と青年の姿が見かけられなくなって来ている昨今ですが、青年は教会で育てられたという実感を持っている場合はいずれ戻ってくるのではないかという神父様のお話を伺い希望が湧いて参りました。

初めて参加をさせていただいた集いでしたが、テゼの祈りと歌で心がおだやかで満足を得て帰路につきました。有難うございました。



## 札幌地区

## 侍 者 会

北11条教会 青年会 三浦 賢信

今回のカトリック札幌地区侍者会は北26条教会のエムリク神父とマリア院のSr. 石崎が企画し、10月2日から3日にかけて同教会で開催された。本会には小学3年生から高校2年生までの札幌地区の侍者と各教会のスタッフ合わせて約20名が参加した。夕食までのプログラムの中では、侍者歴の長い北11条教会のスタッフが侍者、典礼そしてミサという内容で話しをした。プログラム終了後の夕食は北26条教会の婦人会の皆様が作ってくれたカレーライスを皆で美味しく頂いた。夕食後には、前半の内容をクイズ形式で出題して復習した。高学年と低学年が共に助け合って解答に励んでいたが、早押しクイズ形式で行ったため、低学年が答えるのは少し難し

く感じた。次回は低学年でも積極的に参加できるような工夫をしようと思う。

二日目に行われたミサは準備から侍者奉仕まで参加した皆で行い、エムリク神父様によって捧げられ、侍者会は無事終了した。

今回の侍者会を通して、他教会の侍者との交流を深めることができたことは、大変有意義なことだったと思う。しかし残念ながら近年はこのような侍者会に参加する子供が減っており、将来的には侍者会の開催も難しくなるかもしれない。普段から毎日曜日のミサには親子であずかることが何よりも大切であると強く訴えたい。

## 「心の貧しい人は・・・」



講師 雨宮 慧 師

カトリック東京教区司祭

上智大学神学部教授

聞き手 草柳 隆三 氏

NHK日本語センター専門委員

2010年10月30日（土）13：30～16：00

カトリック北11条教会

参加数 230名以上

「あなたがたは『刈り入れまでまだ4ヶ月もある』  
と言っているではないか。わたしは言うておく。目  
を上げて畑を見るが良い。色づいて刈り入れを待っ  
ている。

（ヨハネ4・35）

私たちはまだ『種まき』をしなければならないと思  
っているけれども、すべきことはむしろ『刈り入  
れ』かもしれません。」

「福音宣教」2007年10・11月号「何をしたいか  
わからない人のための宣教学入門」で来住英俊神父  
様はそれぞれが得意とする方法で、しかし「宣教を  
主目的とした意識」を持ってそれぞれが宣教のため  
の時間をつくることを身近な例をあげて提案されて  
います。「人に挨拶するのも『いつかはこの人もキ  
リストを知るかもしれない』、本を読むのも『宣教  
へのヒントがないか』という求める気持ちで読む、  
勉強をするのも『いつかは人に伝えるのだ』という  
鮮明な意識を持って学ぶ」のだと。

前置きが長くなりました。札幌地区宣司評の基本  
方針の一つ「社会への宣教と福音化をめざした活動  
の試み」として、現在NHK教育テレビ「こころの  
時代 宗教・人生」で聞き手を担当されている草柳

さんをお迎えしての「市民のための聖書入門」が実  
現しました。ふだんは黒子に徹している草柳さんで  
すが、今回は市民の代表という立場で雨宮神父様に  
ストレートに質問をぶっつけていただきました。

聖書に書かれている事はどこまで歴史的事実なの  
か、聖書記者が脚色しているのか、どんな風に見れ  
ばよいのかと「最初から豪速球が投げられました！」  
が、神父様は創世記の1章と2章での人間の  
創造物語の違いを例に「我々は史実に注意が向いて  
しまいがちだが、聖書が史実だけに気を取られてい  
るとすれば、明らかに異なる内容を併置するはずが  
ない。史実は大切ではあるが、人間はなぜ創られた  
か、どういう存在なのか、その出来事が我々にとっ  
てどういう意味を持っているのか、ということに聖  
書は興味を持っているということではないか」と返  
球されます。

さて、当日のテーマでもある「心の貧しい人  
は・・・」です。マタイ(5・3-10)版とルカ(6・  
20-26)版を比べながら、「天の国」「神の国」、「そ  
の人たち」「あなたがた」、「心の」がついている、  
ついていないなど詳しい解説がされました。草柳さ  
んは、ルカは「心の」をつけずに「貧しい人々は」



と記述したのは、今現実の問題として経済的に貧しい人、本当に食べ物がない貧しい人を中心にしていないのではないかと問います。神父様はルカ21章1-4で語られている賚銭箱に献金を入れている貧しいやもめの話を例に応戦します。「もし、イエスがただただ経済的に貧しいことだけを言っているのであれば2枚しか持っていないお金を大事に使いなさいというはずで、生活費と訳されたピオスには『この世における生涯』という意味があり、生活費の全部を賚銭箱に入れることができたのは自分の生涯全部を神に賭けているということ、それをイエスは称賛したのではないかと」。

お二人の攻防(?)は多岐にわたり、ますます深まってきました。すべてをご紹介することはできませんが終始一貫して神父様の軸足は聖書におかれたままで「聖書はこう言っています」、「聖書の神は」、「聖書の興味は」、「聖書が述べているのは」と自分の思いを語るのではなく、聖書をとおしての神の思いを語っていたと思います。

冒頭でご紹介した来住神父様の宣教学入門によると、「宣伝ピラを作る」、「入門講座に友人を誘う」ことは宣教活動の役割を引き受けることの一つだと言います。私自身は友人を誘う事はできませんでしたが、修道会にいる友人にピラを送り、祈りをお願いしました。雨宮神父様は横浜から草柳さんという友人を連れてきました。おそらく草柳さんはスタジオでは得られなかった何かを今回のライブで感じられたのではないのでしょうか。「神に感謝」という日

が来るのも、そう遠くはないかもしれません。

今回で9回目になる雨宮神父様の聖書講座を「市民に向けて」開催したい旨を神父様にお話ししたところ「わたしには、有り難い人生講話はできません。聖書に関する事なら」ということでお引き受けくださいました。そして、聞き手として草柳さんをお招きしたいとの願いにも「口説いてみます」と、その役割を引き受けてくださいました。草柳さんも神父様の熱い説得に、皆様のお役にたてるならと、いわばアウエーに乗り込み裸の聞き手となって神父様に体当たりしてくださったのです。

アンケート(回収率31%)によると、内容は「大変わかりやすかった」「理解できた」(79%)方が多く、聖書への興味・関心は「大変増した」(85%)ようです。さらに今回の話を聞いて「聖書を学んでみようと思った」(75%)方も多かったようです。「家族・友人に勧められて」参加したと答えた方は9人でした。アンケートに答えてくださった方のうちでは14%となりますが、参加者全体で見ると4%ということになります。

とにかく、今までの聖書講座からちょっと踏み出すことができました。遠くからお出でくださったお二人と参加してくださった皆様、またいろいろな形で支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。私たちが鮮明な意識をもって主体的に「私なりの宣教」ができますように。

なお、当日の録画DVDは各教会に配布予定です。

(文責：実行委員 小野崎良子)



## 第2期 要理担当者養成講座 開講

2011.1.15 (土) ~2012.7.7 (土) 全16回

### <趣 旨>

各小教区における求道者への要理指導は、主に主任司祭が行ってきましたが、新しい求道者への対応が困難であり、また、今後は司祭の減少（少数化など現在の状況ではその対応に困難）が予想され、ますます信徒の奉仕が求められます。そこで、数名の信徒がグループで求道者と共に歩みつつ、それぞれの人の中にあるものを分かち合いながら進める奉仕者の養成を目指します。

教会を訪れる方に対して、宣教に召されている信徒ひとり一人が信仰の語り部になり、キリストを熱く語り伝えて行くことが求められます。

‘要理指導する’ということよりも、人々の苦しみや悲しみに耳を傾け、係わり合う。ひとりの人間として大切にされず重荷を背負い、乾ききったこの世の中であって、一人ひとりが価値のあるかけがえのない存在として愛されていることを伝えていく。そこに恵みが注がれ、喜びと感謝のうちに、お互いのために折り合うことへつながっていくのではないかと思います。

### <経 過>

2006年11月 「プレ講座」を開催

2007年4月 正式に第1期養成講座（月1回、15講 参加者86名 平均60名、主な会場は月寒教会）

2008年5月 「アドバンスコース（更なるステップ）」開催（隔月で6回）

2009年8月 実践状況の交流（40名 ブロックを考慮した実践の場紹介）

第1期要理担当者養成講座の参加者においては、主任司祭の方針等もあり、小教区での実践の機会が少ないのが現状です。

しかし、参加者は「要理担当者」という言葉に多少の不安はあるものの、同伴者としてキリストの心を互いに分かち合い、入門クラスに共に出席したり、家庭訪問したり、ミサ後の喫茶コーナーなどで話し相手になったり、代父母となるなど求道者に寄り添う奉仕をされた事が報告されています。

### <参加資格>

主任司祭に推薦された人（第1期生も不可ではありません）

別紙カリキュラム参照 使用テキスト（初回に数十冊用意しますので、お求めください）

百瀬文晃著 「キリスト教の輪郭」 1,260円 女子パウロ会

※ お申し込みは所属教会へ



## 編集後記

初雪と紅葉の季節が終わり、待降節に入りました。

主イエスの救いに与っている私たちにとって待つことは希望そのものです。

私たちが既に頂いている愛と希望をもっとも必要としている小さな人々とわかちあうことができますように。

(M・T)